



The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 18 | Issue 2 | December 2014

➡ In this issue...

- ▶ 創立者奨学金...p. 2
- ▶ KISTival 2014...p. 3
- ▶ K2木炭自画像...p. 5
- ▶ 元少年兵...p. 10
- ▶ CAS—化学っておもしろい...p. 11
- ▶ KISTクロスカントリー大会...p. 12
- ▶ 7年生キャンプの成功...p. 15
- ▶ テクノロジー使用の管理方法...p. 17
- ▶ G11 DPオリエンテーションキャンプ...p. 18
- ▶ セカンダリーSRC...p. 19
- ▶ KIST模擬国連代表がソウルで...p. 23
- ▶ PTAコミティー...p. 25

学校長より

KISTコミュニティの皆様には季節のご挨拶を申し上げます

今年の秋は比較的暖かだったからか、もう12月、そして冬休みが間近に迫っているということがにわかに信じがたい気持ちになります。今年度の始まりは学校の皆にとって非常に忙しいものでしたが、同時に達成感のある実り多いものとなりました。

10月に開催された毎年恒例のKISTivalは開校以来の大成功で幕を閉じました。4000人近くの参加・来校者があり、エレメンタリーとセカンダリー、そして新体育館ビルの建設のサポートのために、700万円近い売り上げがありました。また、KISTのPTAは初の国際ファミリーポットラックを開催し、多くの参加者が国際的な料理の数々を楽しむとともに、保護者間の交流を楽しみました。

今年度のはじめの数ヶ月で、多くのカリキュラムに平行した活動が行われました。生徒達は体育イベントや、7・11年のキャンプ、セカンダリス쿨のダンスパーティ、2つの演劇祭(うち1つはKIST主催)、バレーボールリーグ、ランチタイムコンサート、そして恒例のクロスカントリーなどを楽しみました。また、エレメンタリーとセカンダリーの両方において冬季コンサートを再開し、多くの生徒の才能をコミュニティ全体と共有する機会を設けました。上記イベントリストだけでも、非常に魅力的かと思いますが、今年度はさらに多くの活動を行い、達成してきました。

エレメンタリーの生徒達は作家訪問や、(全日本チームの矢野貴章選手を含む)プロサッカー選手によるワークショップを楽しみました。本の登場人物に扮した仮装パレードは去年より更に多くの生徒や職員が参加するより楽しい催しとして大成功を収めました。

セカンダリーでは学校の集会にゲストスピーカーにいらして頂きました。その中にはコンゴ共和国で少年兵としての悲劇的な経験についてお話くださったMichel Chikwanineさんもいらっしゃいます。生徒達は話を伺って、自身の、世界に良い影響を与えることが出来る能力について考えさせられました。また、今週、KISTセカンダリーの一部生徒は初めてソウルで開かれた模擬国連会議に参加する機会を得ました。この件については今号のコメントの記事をご確認ください。

次のページに続く

Staff Quote

「子供時代に多くを学ぶほど、後の人生が簡単なものになる。」

—Nomingereul Ulzii

DATES TO REMEMBER



December 2014

- 5 (G1-G12) Clubs program ends
- 8-10 (G9-G11) Semester 1 examinations
- 10 (E) Winter concert (*Afternoon)
- 13-Jan 5 Winter vacation
- 15-16 Office open

January 2015

- 5 Staff development day (No school for students)
- 6 (W) School resumes for all students
- 6-13 (G12) Semester 1 DP mock examinations
- 9 2015-2016 enrollment applications close
- 10 (G9-G11) MUN scrimmage (Hosted@KIST)
- 12 School day
- 12 (G4-G10) Mathematics diagnostic testing
- 12 IB DP information session 2015-2017
- 13 (G1-G12) Clubs program resumes
- 26 Semester 2 commences
- 27/29/30 2015-2016 enrollment interviews
- 28 Japanese new year party
- 30 (K1-K3) School holiday



前ページの続き

さらに、KISTはSATテストセンターとなりました。このことで、セカンダリーの生徒に進学に関してより多くのサポートを行えるようになりました。12月の9日から12日まで Council of International Schools (CIS)委員の事前訪問を受ける予定です。この訪問により、KISTで行うことすべてを更に高めるための過程がスタートします。

これまでの様々なことを振り返ってみると、誇らしく思うことがたくさんあります。しかしこれら過去の成功はKISTコミュニティの皆さんのサポート無しには成し遂げられなかったことです。今年、2014年も終わりに近づくなか、KISTを代表してすべての保護者、スタッフ、生徒、そしてKISTの成長を支えてくださった多くの方に感謝を奉げたいと思います。皆さんの貢献と献身は学校の誇りです。このような強力なサポート体制の下で、学校が2015年度にどれだけ成長でき

るのかを非常に楽しみに思っています。

今号のコメットを皆さんにお楽しみいただけますことを望んでおります。また、ご家族・ご友人と安全で楽しいお休みをお過ごしいただけますことをお祈り申し上げます。

2015年にまた学校でお会いできますことを楽しみにしています！

良い新年をお迎えください

Jeffrey Jones
Head of School

Seasons Greetings

創立者奨学金

KIST創立者奨学金(KIST Founders' Awards)は創設者の小牧ご夫妻が始められた試みです。本賞には下記の2種類があります。

KIST就学奨学金(KIST Study Scholarships)は学校コミュニティに顕著な貢献を行った生徒を賞するものです。今年度の受賞者は12月12日、金曜日のセカンダリー集会で発表されます。

KIST大学支援奨学金(KIST University Support Scholarships)は最終学年のDPで高得点を獲得した優秀で勤勉な生徒を賞するものです。下記、今年度の受賞者の皆さん、おめでとうございます。

Congratulations!



KIST大学支援奨学金

Silver Awards



Class of 2014
Rio
Silver Award



Class of 2014
Min
Silver Award

Bronze Awards



Class of 2014
Sashank
Bronze Award



Class of 2014
Adam
Bronze Award



Class of 2014
Daniel
Bronze Award

注意

算数・数学力診断テスト(G4-10)

2015年1月12日



KISTival 2014

2014-2015年度KISTivalも、例年通り皆様のご協力をもちまして成功裏に終える事が出来ました。皆様の献身的なご活動に対し、心から感謝申し上げます。

本年度のKISTivalの結果について、以下の通りご報告いたします。



総収入: 8,952,971 円

(前年対比+2,076,331 円) ただし Contribution 未払 90,000 円を含みます。

総経費: 1,675,422 円

収益額: 7,277,549 円

(前年対比+2,127,476 円) ただし Contribution 未払 90,000 円を含みます。



- 総収入には事前および当日のチケット・ラッフル売上、当日現金売上、入場料、寄付金、協賛広告、スライダー・フリーライドパス、Contribution、Café Tomato の寄付分が含まれます。
- 総経費にはフード・アクティビティ経費、チケット・広告印刷、各種レンタル代、廃棄物処分費、デコレーション経費、各種資材費、Café Tomato 売上精算分等が含まれます。

各ブースの詳細は以下の通りです:

| ブース | 学年 | 活動 | 売り上げ | 経費 | 純利益 |
|---|-----------------------------|-------------------------|----------|----------|----------|
| 保護者 (ブースの売上には未払 Family Contribution を含みます) | K3 | Face painting | ¥77,275 | ¥0 | ¥77,275 |
| | G1 | Drinks | ¥871,725 | ¥278,954 | ¥592,771 |
| | G2 | Korean food | ¥360,558 | ¥0 | ¥360,558 |
| | G3 | European food | ¥312,592 | ¥0 | ¥312,592 |
| | G4 & 5 | Bazaar | ¥914,905 | ¥0 | ¥914,905 |
| | | Air slider ¹ | ¥509,625 | ¥231,926 | ¥277,699 |
| | G6 | Fishing | | | |
| | | Ring toss | | | |
| | G7 | Mexican food | ¥150,375 | ¥0 | ¥150,375 |
| | G8 | Chinese & Japanese food | ¥278,032 | ¥0 | ¥278,032 |
| | G9 | Egyptian food | ¥342,787 | ¥0 | ¥342,787 |
| | G10 | Indian food | ¥341,035 | ¥0 | ¥341,035 |
| G11 | Cakes & Café | ¥183,525 | ¥0 | ¥183,525 | |
| G12 | Senegalese food | ¥183,186 | ¥0 | ¥183,186 | |
| 生徒 | G6A | Miniature golf 1 | ¥26,875 | ¥7,937 | ¥18,938 |
| | G6B | Miniature golf 2 | | | |
| | G7A | Angry birds | ¥71,500 | ¥6,974 | ¥64,526 |
| | G7B | Ultimate cans | ¥37,500 | ¥6,780 | ¥30,720 |
| | G8A | Free throw | ¥53,500 | ¥5,586 | ¥47,914 |
| | G8B | Chocolate bananas | ¥82,250 | ¥0 | ¥82,250 |
| | G9A & B | Bubble tea | ¥113,750 | ¥27,864 | ¥85,886 |
| | G10A & B | Haunted house | ¥110,500 | ¥42,462 | ¥68,038 |
| | G11A & B | Sponge toss | ¥113,500 | ¥11,935 | ¥101,565 |
| | Les Miserablés ² | Slime & accessories | ¥51,375 | ¥0 | ¥51,375 |
| Habitat ³ | Fundraising | ¥37,251 | ¥0 | ¥37,251 | |
| スタッフ | KIPS | お祭り | ¥251,425 | ¥0 | ¥251,425 |
| | Staff 1 | Philippine BBQ | ¥204,500 | ¥47,875 | ¥156,625 |
| | Staff 2 | Ice cream (Yonanas) | ¥34,750 | ¥3,768 | ¥30,982 |
| | Komaki Family | Thai food | ¥124,625 | ¥19,045 | ¥105,580 |
| その他 | Professional | 卵焼き | ¥112,500 | ¥0 | ¥112,500 |
| | Professional | ちゃんこ | ¥114,000 | ¥0 | ¥114,000 |
| | カンボジア支援 | カンボジア雑貨販売 | ¥50,875 | ¥0 | ¥50,875 |

| | | |
|-------------|----|---------|
| Café Tomato | 寄付 | ¥54,640 |
|-------------|----|---------|

¹ G6 Air slider: 売上にはフリーライドパス売上を、経費にはスライダーレンタル費、フリーライドパス用バンドを含みます。

² Les Miserablés: 利益のうち 60%はクラブの収入となります。

³ Habitat for Humanity: 全額 Habitat の収入となります。



エレメンタリースクールニュース

季節のご挨拶を申し上げます!

信じがたい気持ちもありますが、三週間の冬休みが近づいています。学校が始まった8月の耐え難い湿度と暑さから、非常に忙しく、生産的な日々をすごしてきました。有名なことわざにもあるとおり、「楽しいときに限って時間は早く過ぎる」ものですね。私は個人的に幸せな子供たちのほうが良く学ぶと信じていますので、皆にとって時が速く過ぎていったことを嬉しく思います!

休み中も学ぶこと、そしてそれを楽しむことを続けるために、お子さんとの読書を継続するとともに、お子さん自身が本を読むことを奨励してください。絵本でも、子供雑誌でも、人気小説でも、漫画雑誌でも、読むことはテレビを見たり、ビデオゲームをしたりするよりもずっと楽しく、時間を生産的に活用できる行為です。

新年に皆さんにまたお会いし、更にすばらしい、楽しく、学びの機会に満ちた2015年を過ごせることを楽しみにしています!

良いお休みをお過ごしください

Kevin Yoshihara
Elementary School Principal



ようこそ!

産休中のK2英語サポートインストラクター、Joanna Lee 先生が11月30日に元気な男の子(名前はまだこれからつけられるそうです)を出産されました。Ms Joannaおめでとうございます!



お休みに向けて

評価、成績表、そしてポートフォリオとともに第1四半期があつという間に過ぎ去りました。冬休みが近づくとつれ、私たちの心の中も休暇中や、新年の計画でいっぱいになっています。この時期の習慣や行事はたいいてい私たちが生活するうえでの哲学的なメッセージや道徳的な教えを含んでいるものです。哲学的・道徳的な教えという流れから、本校にとって重要であると考えられているIB(インターナショナルバカロレア)の個人・社会的規範システムについてお話させてください。

本校の生徒に体现して欲しい理想の姿として、IBの掲げる12の態度と10の学習者像をあげています。本校の目標は国際感覚のある、私たちの星である地球に対する共通の保護意識を持ち、より豊かで平和な世界を作る助けとなる人材を育成することを目指しています。IBの掲げる12の態度は個人と社氣的態度、他の人や環境、生涯学習との関わり方に対する生徒の理解を補助することを目的としています。このような考えは季節毎の伝統的な寓話などの中にも繰り返しあらわれることから、ここKISTで子供たちの生活の一部であるこれらの考えについて、この機会に振り返ってみたいと考えています。

保護者、生徒、そして教師として、これらの事柄について自分自身の方法で考え、お休みや、祝祭の時期だけでなく、一年中、毎日、世界をより良い場所にするために出来ることをしていきたいと思えます。このお願いをするにあたって、学習者像と態度をリストにしてみました。このリストを元に、皆様のお休みをより素晴らしいものにして頂けたらと思っています。旅行をなさる方は安全に気をつけて、楽しいときをお過ごしください。また新年にお会いできることを楽しみにしております!

| 学習者像 | |
|------------------|-------------|
| 探求者 | 心の広いもの |
| 知識のあるもの | 思いやりのあるもの |
| 考えるもの | 挑戦者 |
| コミュニケーション能力のあるもの | バランス感覚のあるもの |
| 正義感のあるもの | 振り返りを行うもの |

| 態度 | |
|-----|-----|
| 感謝 | 共感 |
| 努力 | 熱意 |
| 自信 | 独立心 |
| 協力 | 誠実 |
| 想像力 | 敬意 |
| 好奇心 | 寛容 |

良いお休みを!

Clay M. Bradley
Elementary School Vice Principal /
IB PYP Coordinator

K2木炭自画像

K2では、材料・素材の使い方について話し合い、様々な実験を通して、物の性質や、どのようにその性質が変化するかについて探求しています。

子供たちは炎や熱にふれると、木がどのように変化するかについて学びました。

図工の授業では、園庭で燃やした木の棒がどうなったかについて振り返りを行い、木が燃えた後の木炭をどのように活用できるかについて話し合いました。子供たちはその後、木炭を使って自画像を描きました。

John McDonough
K1-K2 Art Teacher



KIPSニュース



KIPSでは刺激的な四半期を過ごしました。多くの子供たちが新しい友達を作ったり、新しいことを学んだりしています。

子供たちは保護者の皆さんと一緒にいった、横浜ズーラシアへの初めての遠足を十分に楽しみ、多くの珍しい動物を見ることが出来ました。子の遠足は、コミュニケーションスキルを実践し、授業で学んだことを実生活と結び付ける絶好の機会でした。

ナーサリーとK1の生徒達は双眼鏡を使って動物たちを探し、「鳥が見えます」「猿が見えます」などのフレーズを使いました。K2とK3の子供たちは自分が見た生き物についての質問、「猿は飛べますか」や「ペンギンは泳げますか」などの質問に英語で答えました。

コミュニティとして、一緒に色々なことを探求するのに最適のすばらしい一日でした。



KIPSナーサリーとK1の生徒たち



KIPS K2とK3の生徒達

エレメンタリーELLS

5年生がどうやって言語を日常生活の一部にしているかについて話し合いました

数名の5年生に、学校だけでなく、日常生活においても言語を学ぶために使用している習慣や、テクノロジー、ツールについてインタビューを行いました。インタビューから抽出した内容の前半部分を皆さんとここで共有したいと思います。今回はテクノロジーとツールに焦点を当て、後半ではこれらの生徒達が自分たちで編み出した学習習慣について詳しく共有したいと思っています。自分たちの経験を共有してくれた**Minh Ha (G5B)**、**Yoo Mee (G5B)**、**Hanna (G5A)**と**Miyabi (G5A)**に感謝します。彼らのアイデアはまだ自分独自の有効なツールを見つけ出していない人たちにとっても非常に役に立つものとなることでしょう。

Hanna、Minh Ha、Miyabi が2つの主要言語において同時に言語を学ぶ際にどのようにテクノロジーを使用しているかについて話してくれました：

「言葉が全く分からないときはiPhoneを使います。言葉を変えるアプリ、翻訳アプリを持っているのです。私は日本人なので、言葉が難しいときはまず日本語に変換してお父さんやお母さんに聞きます。お父さんたちは日本人なので、日本語で教えてくれることが出来ます」(Hanna)

「コンピュータのアプリです。お父さんが薦めてくれた子供の辞書で、とても使いやすいです。文例があったり、英語やベトナム語での意味が出てきたり、その言葉を使った慣用句が出てきたりもします。なので、とてもわかりやすいです」(Minh Ha)

「dictionary.comを使います。無料の翻訳が提供されています」(Miyabi)

Yoo Mee は英-英辞典のオンライン版を使っています：

「オックスフォードか、ケンブリッジの辞書を使います」

しかし、参考書籍・文献となると、類語辞典の方が辞書よりも役に立つという意見で合意しました：

「類語専用の辞書があります。辞書もいいと思いますが、辞書は自分が言葉を覚える時にはあまり役に立ちません」(Yoo Mee)

「Yoo Meeと同じように類語を調べました。例えば、“capacity”(能力・受容力)は、“ability”(能力)と同じような意味です。なので、より分かりやすいと思います。(Minh Ha)

「時々難しい言葉の別の言い方を調べるために類語辞典を調べます」(Hanna)



MiyabiとHanna I.



Minh HaとYoo Mee

一つの単語やフレーズだけでない場合はどうしますか？
Minh Haは文書全体を翻訳することを提案しています：

「ニュースは大人向けに書かれていることがあるので、読むのが難しいことがあるので、翻訳ソフトにコピー&ペーストして自分の言語に変換する必要があります。時々翻訳が正しくないことがあるので、読んだ後、考えて、辞書を引く必要もあります」

他にどのようなテクノロジーが言語学習に役立ちますか？
Minh Ha が説明してくれました：

「アンドロイドアプリのFluent Englishを使ったりします。本を読み上げてくれ、巻き戻したいときは簡単に出来るし、難しい言葉があったら、その言葉をタップすると自分の母国語の辞書機能が呼び出せたりするので、とても便利です。自分の言語を選択して、クリックするだけで答えが出てきます。慣用句がある場合は、検索して、どのような意味かを教えてくれます。これで出てくる本が好きです。」

他の皆さんも、役に立つアプリやオンライン資料をご存知だと思います。情報をお持ちの方はお子さんのクラス担任やELSインストラクターと是非ご共有ください。学校コミュニティのメンバーと共有したいと思います。ご協力に感謝いたします！

次回は5年生たちが自分たちで開発した言語学習のための習慣について詳しくお話しします。

Rachel Parkinson
Elementary ELS Coordinator



MYPニュース

MYP 教師と生徒達が概念に集中する

“ 大切なのは事実や流布している事実の解釈を吸収したり、反芻したりすることではなく、未知の状況に対応し、発生した事実に新たに対処することの出来る考え方や精神力の発達である。 ”

(Alec Peterson, 初代IB事務局長 2003: 47)

新たな学年度が順調に進む中、生徒達は彼らが学んでいる教科にある概念の重要性に気づき始めています。概念とは様々な教科の理解の根底にある普遍の考えのことで、各教科の個別の内容やスキルも重要ですが、大きな概念を理解することは、教育や学習を更に意味深いものにします。



7年生が実験室で、関連する根拠・証明の概念について探求しているところ

MYPの新しい試みの中で、プログラム学習の基本となる16の鍵となる概念を導入しています:

| 美学 | 変化 | コミュニケーション | コミュニティ |
|-----|------|------------|---------|
| 繋がり | 創造性 | 文化 | 発達 |
| 形式 | 国際交流 | 個性・独自性 | 論理 |
| 視点 | 関係性 | 時・空間(宇宙)場所 | システム・組織 |

各教科郡はその時点で学習する探求テーマにふさわしい鍵となる概念を4つ選択します。生徒達が各教科の学習を進め、MYPの段階を進むに連れ、これら概念を繰り返し学習することになります。この概念の反復学習がより深く、意味深い学びを確保します。

各教科郡を通して学べる概念に加えて、各学習内容には**関連する概念**があり、各教科に特有のより詳細で、厳密な知識ベースの学びを確保します。例えば、美術・芸術では解釈、発表、構成や表現といった考えを詳細に考察します。



6年生の美術の授業で、生徒が自然の素材を使った制作によってコミュニケーションについて探求しているところ

保護者は、お子さんのこれらの鍵や関連概念の理解度と、それらが学習に与える影響について確認することにより、MYPでの学習をサポートすることが出来ます。

MYP パーソナルプロジェクト進行中

MYPの5年生－10年生では各生徒が長期的な課題であるパーソナルプロジェクトに取り組みます。毎年10年生はこの密度の高い課題を通して自身の成長と学習の理解度を示す機会を得ます。

本課題名が指し示すとおり、パーソナルプロジェクトは各生徒の興味や関心、才能によって形作られます。今年も多くの興味深いテーマが探求されています。生徒の作業には4つの段階を含んでいます：**調査・探求、計画、行動、そして振り返り**です。MYPの国際的・地球的内容に結びついた目標を確立すると、生徒達はテーマに関する詳細なリサーチを行い、自身のスキルを示す成果物を制作します。各生徒は、プロジェクトの過程で様々な助言を与え、導く、KIST教職員からなるスーパーバイザーと一対一で課題に取り組みます。

Personal project process journal #1 – Choosing my topic

In 10th grade the number 1 thing that we all are excited for and also expected on doing is the personal project. The personal project is a big project that we conduct in 10th grade on the course of 8 months (approx.). We get to choose any topic we want and investigate it in great detail. From the investigation we in the end write an essay and also create a final product showing all of our understanding on the topic. In the end we show all of our knowledge and products as an exhibition to our parents and also to other people in our school community. Whether it is teachers or people from other grades. Overall it is a very challenging, yet interesting project in general.

The first and the most important decision we have to make at the beginning of the process of the personal project is choosing the topic. This is a very important decision because it will determine the course of the entire personal project. My main focus was to somehow incorporate both of my passions, Art and Music. In order to make the possible I thought of many different combinations of the two. My original plan was to study music psychology, how the type of music we listened to affected the way we imagined things. Whether it was options or images, but I was struggling to think of a product to create so I decided to change my topic. Why trying to browse ways to think of another topic, I came across a video of people creating music using only their voice.



10年生のパーソナルプロジェクト、過程記録日誌からの抜粋

プロジェクトへの取り組みは速やかに進行しています。最終的な成果物は全学校コミュニティに対して**3月6日金曜日**に公開されます。

前ページの続き

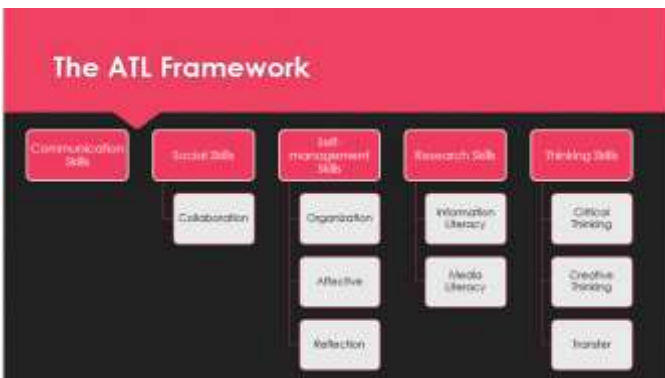
ポートフォリオがMYP生の振り返りを促します



MYP生徒ポートフォリオの表紙

6年生から10年生までの全生徒はKISTでのMYPプログラム経験を記録するポートフォリオを作成します。このポートフォリオは生徒に学習の主要な分野：IB学習者像、学力成績、学習スキルへのアプローチ、における振り返りを促すためのものです。

金曜午後のアドバイザリーの時間に、生徒達はポートフォリオに入れる作品をアドバイザリー教員と収集します。生徒達はこれら作品を通して、学習者像とその態度をどのように表現してきたかを示すのです。生徒達は各主要教科からの成果物や振り返りもポートフォリオに入れます。生徒達は自身のポートフォリオを学習スキルへのアプローチ方法の自己評価の材料としても使用します。



学習スキルへのアプローチはIBの3レベルを横断して使用されます

保護者の方には、MYPポートフォリオを活用して、お子さんと進捗や成果についてお話されることをお勧めします。このポートフォリオは今年度、3月21日に予定されている生徒主導面談でも重要な役割を担います。

MYPIに関してご質問がごありの方や、概念ベースの学習や、パーソナルプロジェクト、MPYポートフォリオについてより詳しくお知りになりたい方はご遠慮なく私までメールでお尋ねください。

robert.white@kist.ed.jp

Robert White
MYP Coordinator

セカンダリースクールニュース

11月28日金曜日のウィンターコンサートを見ながら、最近生徒達が参加する機会を得た学校行事の数と、これら行事を行うために教員を始め学校コミュニティのスタッフが捧げてくれた時間や労力のことを考えずにはいられませんでした。Mr Jonesもすでに校長からのメッセージでこれら行事について述べられており、今号のThe Cometでは生徒達も行事のいくつかにおける経験について寄稿しています。皆さんがこれらの記事を楽しんで読んでくださることを望んでいます！また生徒会の役員が企画した生徒会のページにも是非目をお通しください。これからThe Comet紙上に生徒会ページが定期的にお目見えすることを望んでいます！

この場をお借りして1学期のアセンブリーとゲストスピーカーについて簡単にご紹介させていただきます。元少年兵のゲストに加えて、KISTの卒業生2名が今経験していることについて話に来てくれました。そのうちの一名、**Marie Strand Hayashi** (Class 2013)は東京大学スキー部への挑戦と、そこでがんばっている現状について話してくれました。また、保護者の皆様には、お子さんの学校の制服規定遵守をサポートして下さっていることに感謝いたします。今年度はこの分野(制服規定の遵守)に関する期待値の一貫性と公明性を目指してまいります。

最後に、セカンダリーの生徒達に学習に関連するいくつかの重要な日程についてお知らせすることで、私からの短いメッセージを、終わります。まず、第一四半期の成績表配布の後に行われた11月24日の面談にお越しいただいた保護者の皆様、ありがとうございました。お子様の学習進捗状況や進歩をお知りになる有意義な機会となったことを願っております。一月末には8月からの学習成績に関するフィードバックとなる1学期の成績表が発行されます。その2ヵ月後の3月末には生徒と保護者の皆様にお越しいただく生徒主導面談が行われます。6年生から10年生の生徒達は既に年間を通して作成されるポートフォリオをまとめる作業を始めていますので、保護者の皆様にはポートフォリオ作成の進捗状況についてお子様にお尋ねいただけますようお願いいたします。保護者の方からの声かけが生徒達の励みになり、前倒しの作業にもつながります！

KISTコミュニティの皆様が素晴らしい冬休みを過ごされますようお祈りいたします。そして2015年に生徒達や保護者の皆様とまた学校でお会いできますことを楽しみにしております。

Mark Cowe
Secondary School Principal



プレゼンテーション・フェスタ 2014

昨年、本校は中村学園から、跡見学園高校で毎年11月に開催され、近隣の日本の高校数校が参加するプレゼンテーション・フェスタへの招待をいただきました。昨年、本校の **Jiaying** が参加し、プレゼンテーションで賞を獲得したというご案内を覚えておられる方もいらっしゃるかと思います。

今年は、本フェスタに **Enna** (G10B)、**Haruka** (G11A)、**Jiaying** (G11A) そして **Mai** (G11A) の4名がKIST代表として参加し、「現代の社会問題について」の発表を行いました。



Enna



Haruka



Jiaying



Mai

互いをより良く知り合うための活動の後、生徒達はグループに分かれ2時間をかけて、5分間の発表を行う問題について話し合い且つリサーチ・準備を行いました。KIST生が参加した4グループで発表した問題は以下のとおりです。

- 日本の学校での英語教育 - どうすれば、より役立つ方法での指導が行えるか。英語教育のほかのモデル・方法は。(Jiayingのグループ)
- 性別についてのステロタイプ・定型化 - 女性・男性の定型化にはどんなものがあるか。日本の職業や機会における性差別には何があるか。(Maiのグループ)
- 教育システムにおけるテクノロジーの使用について (Ennaのグループ)
- スマートホンのながら歩き - スマホを歩きながら使うことで、渋谷の交差点でどれだけの怪我が発生しているのだろう。(Harukaのグループ)

本イベントに参加した生徒からのコメント:

「私たちにとって、他の学校の生徒と交流し、自分の意見を主張するとともに、異なった意見を聞くことは素晴らしい経験でした。私たちはとても国際的な環境で学んでいます、その中でも、この環境に特有の、社会問題に関して、ある意味回顧的・遡及的なものの考え方をしてしまいがちです。そのため、日本の、又はアメリカ人の生徒たちがどのように問題を捉えるのかを学ぶのはとても興味深かったです。」
「また、他の学校の生徒と友達になれたこともよかったです。」

参加したすべてのKIST生が参加賞を手に入れました。

学校を代表し、本イベントに参加し、学校のミッションである、有能な若者として国際社会に貢献してくれた Enna、Haruka、Jiaying と Mai に感謝します。来年も強力なチームで参加できることを(そして男子の参加も)望みます。

セカンダリー ELS

学校のニュースレターに寄稿することが出来るのは私にとって大きな喜びです。本校では今年から生徒の英語力向上のサポートの為にいくつかの対策を導入しました。これらの対策は個々の生徒のニーズを支援し、能力を伸ばすことが目的です。この目的のために、英語サポートセンター (ELS センター) は英語に関する質問を持った生徒達と日常的に面談する機会を設けています。ELSセンターはセカンダリービルディングの2階、213号室にあります。センターにはいつでも生徒のサポートを行ってくださるインストラクター: Mr Davignon と Mr Boyd が在室しています。また、この2名は朝のアカデミックライティング講座も指導しています。他の教科でもライティング力を向上させたいと望む生徒にとって、よりよいライティングの方法を継続的に学ぶ絶好の機会です。アカデミックライティング講座への申し込みは LEAP ページからオンラインで行うことが出来ます。Mr Davignon と、Mr Boyd はいくつかの通常授業でもサポートを行っています。生徒は誰でも英語に関する質問をし、サポートを受けることが出来ます。授業中にサポートやアドバイスが必要な生徒は誰でも英語に関する質問をすることが出来ます。私自身も、木曜日の放課後は10年生以上の生徒全員のために英語に関するどのような質問も受け付けています。



Riku (G9A)

“ ELSは、主に自分の人文系のエッセイをより良くすることを手伝ってくれたけれど、他のクラスにも役立ちました ”

Kuni (G9A)

“ ELSはとても役に立ちます; 先生たちは僕が助けを必要としているとき、いつもそこにいてくれます。Mr D. はとても分かりやすく意見をまとめる手助けをしてくれます ”

Ayaka (G9B)

“ 文法が役立ちました! ELSは私の総括的課題を構成し、書くときにとても助けになりました ”



ELSを活用してくださっていることに感謝します。

William Miller O.C.T.
Academic Writing and ELS
Coordinator

セカンダリーのELSインストラクター、Mr Boyd、がELSセンターで生徒のサポートを行っているところ

元少年兵

2014年の11月4日に12年生の心理学受講者は非常に幸運なことに、元少年兵だったMichel Chikwanineさんにインタビューする機会を得ました。非常に過酷な経験をされていたにもかかわらず、Michelさんのすばらしい人間性により、インタビューは涙だけでなく、笑いにあふれたものになり、このような悲劇的な状況下に生まれた人にとって人生が以下に過酷なものになりうるかについてクラス全員が非常によく理解することが出来ました。

インタビューは3つの部門に分けて行われました。最初は彼の故郷であるコンゴ共和国での少年時代について。クラスのメンバーはすでにアフリカの現状について彼に質問する準備が出来ていました。好きなコンゴ料理や子供時代の経験についても簡単に話していただきましたが、氏の情熱はアフリカ大陸への視点について話す際にあふれ出したようでした。Michelさんは自身のアフリカへの愛を雄弁に述べ、その豊富な文化や、学ぶべき豊かな歴史的背景について語りました。「私の意見では、アフリカは世界で最も大きく、美しい大陸です」とMichelさんは語ります。次の部分では、氏の少年兵としての厳しい生活についての質問を含みました。氏はクラスにコンゴ共和国の歴史について教えてくれ、国の植民地化によって起きた政治的紛争について語りました。氏自身が耐えなければならなかった残酷で、衝撃的な監禁生活について語られたとき、教室に数分の重い沈黙が訪れました。最後の部分では、クラス全員が、Michelさんがコンゴの人たちや少年兵問題のために行おうとしていることの一部を理解することが出来ました。また、重苦しくなった雰囲気軽くするために、最後にサッカーへの愛と、いずれコ



ンゴ共和国に戻り、元少年兵や恵まれない子供たちがサッカーを学べる施設を作りたいという夢を語りました。

インタビューの間中、氏が繰り返し述べたのは、アフリカ大陸について人々が持つ誤解についてでした。氏は、これまでの年月、アフリカがいかにアフリカ人たちの意見を無視した、西洋や西洋的な視点を反映せざるを得なかったかについて語りました。世界はこれまで、アフリカについて先入観に満ちた否定的な考えを持ってきました、またMichelさんは、この問題を解決するためには、より多くのアフリカ人が自身の意見を声に出し、アフリカという大陸の真の美しさについて表明しなければならないと提案しています。

実生活に即した心理学の方法論について知ることの出来るすばらしい機会であり、Free the Children JapanのFaith Amanoさんと Momo Nukariyaさんにこの機会を設けてくださったことを。また、Michelさんにこれほどオープンに、そして多くの情報を与えてくださったことに感謝いたします。

Salam (G12A)

11月18日の午前中にカナダから、元少年兵だったコンゴ出身のMichel Chikwanineさんがゲストスピーカーとして来校されました。Michelさんは5歳のときに反乱軍に拉致され、児童労働の最低の形として知られる少年兵となりました。少年兵の立場から逃れることが出来る人は非常に稀ですが、Michelさんはその生還者の一人でした。その後、彼とその家族は難民認定を受け、数年前カナダに移住しました。



11月12日から24日までMichelさんは日本各地で公演を行われており、KISTでも、氏の経験について伺うことで世界紛争の一つである少年兵問題についての認識・認知度を高めるために特別アセンブリーのゲストとしてお越しいただきました。Michelさんのお話をお聞きして、毎日学校に通い、当たり前のように教育を受けることができる私たちはどれほど恵まれているかということについて改めて考えさせられました。なぜなら、教育こそが今この瞬間も世界紛争の引き金となっている貧困を減らすことが出来るただ一つの道だからです。

この経験が、皆にとって人生を変える忘れられないものとなった事を望んでいます。Free the Children Japanのメンバーとして、変化を起こすことに貢献したいと望む人にはぜひ活動に参加して下さることをお勧めします。Free the Children Japanは楽しみながら、世界紛争を減らしていく活動を促進しています。Free the Children Japanが運営するイベントに参加することは世界を変えることにつながります。それだけでなく、すべてのMYP生にとって必須である奉仕活動と、DP生に必須であるCASの単位としても認定されます。これらのイベントに参加することは間違いなく世界をより良い場所にするための皆さんの考え方を考えるはず。毎朝世界を変えることができると考えながら目覚めた日々を思い出してください。そして、今度はそう思っていたのがあなただけではなかったのだと想像してみてください。すべての人たちも同様に考えていたのです。

Aika (G10A)

CAS—化学っておもしろい

1月14日の金曜日にK2の生徒達がいくつかの実験を行うために初めてセカンダリービルディングの化学室にやってきました。この訪問はK2の理科の単元である「変化」の導入のために行われました。DP生たちはCASの奉仕活動の一環としてK2の生徒達に授業を行いました。

DP化学の生徒達は5グループに分かれ、各グループが特定の実験を行いました。12年生に課せられたのは物理的・化学的変化を伴う実験を行い、その「変化」についてK2の生徒に説明をすることでした。

実験は、石灰水に息を吹き込むことから、砂糖を燃やす、「象の歯磨き粉」とよばれるふわふわした泡を発生させるもの、がミー・ベアキャンディを膨らませるもの、など多岐に亘りました。行われた他の実験には、牛乳の中の色彩の変化・移動に関するものもありました。この実験には牛乳、着色料、そしてハンドソープが使われました。用意された適量の牛乳に着色料を入れ、ハンドソープが投入されました。着色部分は側面に移動し、白いままの牛乳は中央部分に集まりました。この実験は色の物理的な変化の一例でした。

K2の生徒達も5グループに分けられ、各実験テーブルを回って見学しました。K2の先生たちと、各グループに割り当てられたG12の生徒がK2の子供たちに実験でどんな反応があったか・見られたかについて尋ね、生徒達全員が何らかの回答を求められました。子供たちの反応は単純且つエネルギーに満ちたものでした。実験は基本的には子供たちの日常からはかけ離れた反応が見られるもので、そのため、K2の子供たちはより実験を楽しんでいたようです。

先輩として、DP化学の生徒達は子供たちが起きていることを熱心に知ろうとし、日常とかけ離れた現象を理解しようとすることに感銘を受けました。今はまだ、子供たちは化学について殆ど知らないかもしれませんが、けれど将来より多くのことを学ぶ中で、化学への道を歩むことを選択するかも知れません。

Roshana (G12A)



KISTクロスカントリー大会

毎年恒例のクロスカントリー大会が、11月14日金曜に荒川の河川敷にて開催されました。下記は今年の入賞者の順位です。皆本当におめでとうございます。

KIST Cross Country Meet 2014

男子

Grade 1

- 1) Roan (G1A)
- 2) Teo (G1B)
- 3) Kohki (G1B)
- 4) Naoki (G1B)

Grade 2

- 1) Killian (G2A)
- 2) Ryo Y. (G2B)
- 3) Sebastian (G2B)
- 4) Travis (G2B)

Grade 3

- 1) Lance (G3B)
- 2) Daiki (G3A)
- 3) Zoran (G3A)
- 4) Ethan (G3A)

Grade 4

- 1) Keanu (G4B)
- 2) Samii (G4A)
- 3) Soma (G4B)
- 4) Harunosuke (G4A)

Grade 5

- 1) Ryuta (G5B)
- 2) Kaiser (G5A)
- 3) Ross (G5B)
- 4) Daichi (G5A)

Grade 6

- 1) Joe (G6B)
- 2) Den (G6A)
- 3) Jun (G6B)
- 4) Deniz (G6A)

Grade 7

- 1) Nimit (G7B)
- 2) Tomohisa (G7B)
- 3) Oliver (G7B)
- 4) Ewan (G7B)

Grade 8

- 1) Keina (G8B)
- 2) Shin (G8A)
- 3) Shumpei (G8B)
- 4) Tom (G8A)

Grade 9

- 1) Ke Yi (G9A)
- 2) Taisei (G9B)
- 3) Moe Min (G9B)
- 4) Chanwoo (G9B)

Grade 10

- 1) Akira (G10A)
- 2) Ken (G10B)

Grade 11

- 1) Liam (G11B)

女子

- 1) Kate (G1A)
- 2) Lingxuan (G1B)
- 3) Lilica (G1A)
- 4) Jacqueline (G1A)

- 1) Lingfei (G2B)
- 2) Mano (G2B)
- 3) Hana (G2A)
- 4) Hoyuki (G2B)

- 1) Homare (G3A)
- 2) Akari (G3B)
- 3) Hanae (G3B)
- 4) Aina (G3A)

- 1) Elena (G4A)
- 2) Aimi (G4B)
- 3) Sola (G4B)
- 4) Tomoko (G4A)

- 1) Manaka (G5B)
- 2) Nanami (G5A)
- 3) SeYoung (G5A)
- 4) Yoo Mee (G5B)

- 1) Saki (G6A)
- 2) Sato (G6A)
- 3) Maki (G6B)
- 4) Karina (G6A)

- 1) Karen (G7A)
- 2) Emily (G7B)
- 3) Reina (G7A)
- 4) Daphnee (G7A)

- 1) Ayumi (G8B)
- 2) Reina (G8B)
- 3) Rurian (G8A)
- 4) Milan (G8A)

- 1) Jiu (G9B)
- 2) Amina (G9B)
- 3) Leia (G9A)
- 4) Seina (G9B)

- 1) Kotone (G10A)
- 2) Lin (G10B)
- 3) Moana (G10A)



クラブ活動のハイライト



エレメンタリー マジック・ビーズクラブ

1年生のマジック・ビーズメンバーは毎週非常な熱心さと創造性を持ってクラブに参加しています！マジック・ビーズは小さなペグに嵌められる細かいビーズです。生徒達は自分のオリジナルの図柄や模様を作ったり、サンプルを真似したりすることができます。デザインを制作するには一つずつのビーズを小さなペグに嵌めていかなければなりません；楽しく子供たちの手先の訓練（微細運動機能訓練）をするのにも最適です。



デザインが完成したら、ビーズは注意深くアイロンを使って熱せられます（これは大人が行います！）；ビーズは溶けて固まり、固定化された作品が出来上がります。

生徒達は靴につける飾り、壁飾り、ネックレスなどを作り、お友達や家族へのプレゼントにするなどして作品と、自身の創造性を色々な人と共有しています。

クラブのメンバーが実際に制作しているところです！

Helen Campbell
Magic Beads
Club Leader



セカンダリー 絵画クラブ



Secondary Drawing Club

絵画クラブには熱心で才能あふれる部員たちが在籍し、これまで創造性あふれる作品を制作してきました。

絵画クラブは授業では使用できない素材やプロジェクトに取り組む絶好の機会であり、今年度、美術を選択していない人が絵を描くことを続けられる場でもあります。これまでに木炭、パステル、絵の具や鉛筆画に挑戦し、学校制服のデザインをしてみることで、内なるデザイン魂を呼び起こしたりしてきました。また、今度は体育館の壁画のために想像力を発揮しています。体育館がこれからどうなっていくのか、お楽しみに！

-Emma Justice
Drawing Club Leader.



図書室ニュース

記念すべき11月！



第4回目の“Drop Everything And Read” (D.E.A.R.) イベントも終わりに近づきました。KIST図書室より、皆さんに成功裏に終わった一ヶ月間のお礼を申し上げます。本イベントはエレメンタリーの生徒達による印象的な仮装で始まりました。生徒達はお気に入りの登場人物に仮装して校庭をパレードしました。皆さんの想像力に大変感銘を受けました！

G4/G5及び全てのエレメンタリー教員はCharacter Costume Challengeへの参加を奨励されました。セカンダリーの美術教師、Mrs Justiceと、エレメンタリーの図工教師Ms Campbellが生徒のエントリーを審査しました。入賞したShreya (G4B)、Saanvi (G4B)、Kota (G4A)、Rei (G5A) と Kishore (G5B)には、Scholastic Book Clubより\$20の商品券が贈られます。



仮装パレードの日にはいらしていた保護者の方々には教員の仮装に投票して頂きました。Ms Lupone (G3A), Mr Vodden (G2A)そして、Mr Sullivan (G3B)、すばらしい仮装でした！賞品を提供して下さったPTA図書委員会にも大きな感謝を贈ります。仮装行列や、その他DEAR活動中にとられた写真は、図書室のMoodleページに載っておりますので、是非、ご覧ください！



作家訪問

今年度、KIST図書室では初めての作家訪問を受け入れました。作家、Chris Larterさんが本校の2年生と3年生を午後に訪問してくださいました。Mr Larterは生徒達を対象にワークショップを開いてくださり、ご自身の創作過程についてお話くださるとともに、生徒達が自ら創作活動：物語と、自身の登場人物を創作する機会を与えてくださいました。Mr Larter は物語・登場人物デザインコンペティションの入



Mr Larter とMr Dave (中央)、図書委員会の皆さんとMs Hynes (右)。

賞者にご自身のサイン入り著書をプレゼントしてくださいました。2・3年生は、誰が入賞するのか、氏の選択を楽しみにしています。入賞者は次号のThe Cometで発表します。

Mr Larter は、本校のアシスタント教員であるMr Daveとともに、二冊の本：Ten Little Fish と、My Terrible Day、また、氏のご兄弟Jolon Larter氏との共著Spookyを上梓しています。いずれもエレメンタリー図書室で貸し出しています。

グラフィックノベル書架

LMC 及び エレメンタリー図書室のグラフィックノベルの蔵書数が、昨今のグラフィックノベルの教材としての重要性、及び画像による文学的価値を反映し、増加しております。シャークスピアからスーパーヒーローを網羅する本校の蔵書を是非一度ご確認にいらしてください！

近日中に予定されている図書活動

サクラメダル・ブック2015

2015年度サクラメダルの投票やSakura Art Competitionのブック・トレーラーコンテストに参加を考えている皆さん、図書室に展示されている本の貸し出しが開始されます。これらの本は様々な難易度で、英語・日本語で出版されています。グラフィックノベルも別分野として追加されています。日本の多くのインターナショナルスクールがサクラメダル読書プログラムに参加しています。本活動についての詳細はエレメンタリー図書室又はLMCのMoodle ページ、またはオフィシャルサイト<http://sakuramedal.com>をご確認ください。今年の冬休み、是非読書を楽しんでください！



2月20日、世界文化の日

今年度よりKISTでは、国際母語の日を「世界文化の日」として祝うことにいたしました。イベント名の変更は「多様な文化の認識」や「文化の多様性」といったテーマには一切影響ございません。来る2月にKIST図書室では、様々な活動をPTA委員会や生徒達と行う予定です。いくつか予定されている活動としては、民族衣装パレード、保護者による読み聞かせ、図書室ツアー、掲示板のディスプレイ、美術や文化の発表、写真撮影ブース、落語、ファッションショー、母国語の教授、などです。冬休みを母国で過ごされるご予定がある方は、是非、帰国後にKISTコミュニティと民族衣装などを共有できるよう、お持ち帰りをご検討ください。

The KIST Libraries Team

7年生キャンプの成功...

11月20日の、後の雨降りを約束するかのような曇った朝、7年生と引率の先生たちが宿泊舎のために神奈川県を目指してバスに乗り込みました。初日のイベントは宿泊地の茅ヶ崎市柳島のキャンプ場で行われました。午前中はMr Coweが7年生全員のチームビルディング活動を指揮し、そのうちの一つはHuman Knot(人間の輪)と呼ばれる活動でした。Human Knotの活動の目標は、自分の輪の人たちの手を離さずに絡まった状態をほぐすことです。残念ながら、生徒達が昼食のため外に出てきた段階で、今にも降りそうだった雨がまさに降り出し、海岸での予定されていた活動は中止せざるを得ませんでした。その代わりに、生徒達は3つのグループに分けられ、ステーションに分かれて活動しました。2つのグループは屋内で、もう1つのグループは屋外の屋根のある調理用のエリアで活動しました。この日だけ参加するためにいらしたMr WhiteがIBのApproaches to Learning (ATLs) のセッションを指揮し、どのように各アプローチが生徒に関わるのかを教えてくださいました。Ms Komaki はじめの認識や対処法を含む生徒達が互いに交流するための精神的な方法についてのセッションを行いました。その間、屋外の(でも屋根のある)エリアではMr Lee (とMr Smith, Mr Ito, Mr Coweのアシストの元) が後で夕食にな



る野菜の切り方や正しいパスタの調理法を生徒達に教えてくれました。



21日の朝は良いお天気を約束するかのように太平洋に美しい朝日が昇りました。簡単な朝食の後、一同は文学と言語(英語)のクラスで後日短い物語を書く際に使う周囲の写真やメモを取るために鎌倉に向けてバスに乗りました。この日に立ち寄った先は、縁切り寺として知られる東慶寺、銭洗弁才天と大仏でした。生徒達は北鎌倉から大仏までの約3.5キロの木立を抜けるハイキングコースを踏破し、秋の色に染まった木々や雪に覆われた富士山、光を浴びて輝く太平洋などを見る機会に恵まれました。時間切れになってしまったため、予定していたジオキャッシング宝探しゲーム(全地球測位システム(GPS)を利用した、地球規模で行なわれている宝探しゲーム)をすることは出来ませんでした。遠足とキャンプは大成功でした。

これ以上私からお知らせするよりも、生徒達自身がキャンプについて書いた文章を是非お読みください。

これ以上私からお知らせするよりも、生徒達自身がキャンプについて書いた文章を是非お読みください。

Aaron Smith
Grade 7 English/Humanities Teacher

GaOn (G7A)



これまで皆でハイキングをするという経験がなかったので、ハイキングがこんなに楽しいものだとは思ってもみませんでした。このキャンプでハイキングに対する見方が変わりました。このキャンプで一番楽しかったのはハイキングでした。大勢で歩いて、一緒に景色を楽しみました。寝不足だったので、疲れても当然だったのに、驚いたことに全く疲れませんでした。このことで、アメリカの格言:「早く行きたいなら一人で行きなさい。けれど、遠くまで行きたいなら一緒に行きなさい」というのを思い出しました。一人で歩いていたなら、疲れてしまって歩くことは出来なかったでしょう。でも、友人たちのグループで歩いていたので、疲れを忘れて元気がいっぱいになりました。これは他のことにもいえると思います。困難なことに直面しているとき、お互いを信頼し、助け合い、安心することが出来ます。キャンプでG7はもう一度信頼できる友人を持つことと、自分自身が信頼される友人であることの大切さを学びました。

Emani (G7B)



キャンプで最も良かったことの一つは3 kmハイキングです。美しい景色に囲まれ、魔法の森で目的地をぐるぐると求めているような感じがしました。でも、完全無欠というわけではありませんでした。木曜日の雨で道のいたるところが泥でぬかるんです。木々の根も予測不可能なまでに絡まりあっていて、死なないのが奇跡といった状態でした。もちろん、ちょっと大げさかもしれませんが、足元を十分注意しなければならなかったのも本当です。でも、たった一つのことですべての困難もうるさいまでの鳥のさえずりも耐えられました: 上り坂を登っている途中で、草に覆われた土地と、そこにぽつんと立っている古い、さび付いた2件の家がありました。屋根は花で覆われていて、傍若無人な雑草が泥と土で汚れた窓から突き出ていました。そのとき、私はいずれこの同じ土地に家を買って、勉強したり、お茶を飲んだり、読書や踊ったりして一日中過ごせるところだと決意したのです。秘密の、魔法や物語からそう遠くない場所として。

前ページの続き

Michiru (G7A)

キャンプでは色々な活動を行いました。すべて楽しく意味のあるものでした。この旅では多くのことを学びました。でもまず、私が楽しいと思ったことについてお話をさせてください。すべてです！料理も、ハイキングも、ポスター作りも、全部を楽しみました。でも一番楽しかったことを選ぶとすれば、チームビルディング活動を選びます。なぜかという、私のチームが位置に鳴ったことも理由の一つです、でも、それ以上に普段話さない人と話したり、友達と笑いあったり、友達と力を合わせて作業をし、達成感を味わったり出来たからです。私はおいしい食事の作り方や人と交流する方法などを学びました。キャンプで学んだことはあまりに多く、書ききれません。でも、一番思い出に残っているのはIBの学習へのアプローチと、普段あまり話さない人たちとの関わり方です。

Shridhar (G7B)

➤ のキャンプは自分にとってとても思い出に残るものでした。一番好きだったのはハイキングです。
↳ これで自然の美しさにも気づかされました。紅葉した木々の葉を見ることも出来ました。赤く染まった葉のなんと美しかったことでしょう！ここでは写真撮る機会も得られました。富士山も見えました。大仏と縁切り寺では日本の伝統文化の一端に触れました。しかしこれらはすべて2日目に行ったことです。1日目にはチームワークが要求される様々な活動を行いました。この経験で自分が学んだ大きなことはこのチームワークです。また自分たちの食事も自分で作りました。スパゲティとフランスパンを作りました。また、とてもおいしいデザートも作りました。これはすべてMr Leeの料理の腕と指導の賜物です。クラスメートたちと一晩一緒に過ごすのはとても楽しかったです。カードゲームや、他にも思い出に残ることを色々やりました。

ISTAAクロスカントリー大会 2014

今年のイベントは過去最大のものになりました。KISTは11校(NEW、BST、YIS、UST、NIS、COL、CIS、MST、TIS、KAIS)を招き、400名以上のランナーが11月28日金曜日に晴天に恵まれた荒川沿いを走りました。

KISTからはG1からG11までの、約80名のランナーが参加しました。すべての参加者が精一杯の走りを見せ、多くがメダルを獲得しました。

皆さん、おめでとうございます！

Jay Leroy

Athletics Director / PE Teacher

KISTメダリスト一覧

| 男子 | 女子 |
|------------------------------|----------------------------|
| Grade 1 | |
| Kohki (G1B) – Bronze | Kate (G1A) – Silver |
| Grade 2 | |
| Killian (G2A) – Gold | Mano (G2B) – Bronze |
| Ryo Y. (G2A) – Silver | |
| Grade 3 | |
| Zoran (G3A) – Bronze | |
| Grade 4 | |
| Keanu (G4B) – Silver | Aimi (G4B) – Silver |
| | Sola (G4B) – Bronze |
| Grade 8 | |
| Keina (G8B) – Silver | |



テクノロジー使用の管理方法について

保護者が、お子さんのテクノロジー使用を監督する際の10のヒント

オンラインでお子さんが必要な勉強をしているのか、脇道に逸れてゲームや、SNSをしてしまっているのか判断するのは難しいことがあります。ここにお子さんのテクノロジー使用を監督するための10のヒントを上げてみました。

2. お子さんが使っているテクノロジーと、その理由について理解するように努めましょう
お子さんのテクノロジー使用を監督するために、何故、何のためにその技術を使っているかを理解しましょう。これにより、妥当な使用時間を設定できます。

3. テクノロジー使用に明確な時間制限を設けましょう
保護者の方はテクノロジー機器を使用していい時を決めましょう。選択肢としては：学校が始まる前のテクノロジー機器は使用禁止、毎日の使用時間制限や、ゲームは週末のみ、など。

5. "screen free" のシステム-曜日、場所などを設定しましょう
自由にスクリーン(PCで見るもの・インターネット)を見せ合うことができる場所、例えばキッチンやダイニングテーブルなどを設けましょう。または週末のScreen free day(スクリーンを共有する日)もいいでしょう。これにより家族全体の会話や共通の活動が促進されます。

6. 携帯機器の保存を集中させる
すべての携帯機器を一箇所に保存するというルールを設ける。これにより、許可されたテクノロジー使用時間でない場合は機器が手元になく、集中が妨害されることはありません。

8. 体を動かしたり、人と交流する機会を多く与えてください
テクノロジーから離れた意味のある、楽しい活動に参加する機会を与えることも、子供たちが他の活動に興味を抱き、他の人々と交流することへの一助となります。スポーツ、音楽や手芸・工作などに触れる機会を提供してください。

9. 保護者の権限で、特定のサイトをブロックしてください
オーストラリア政府のサイバースマートプログラムに保護者の権限・監督権についての情報があります：
<http://www.cybersmart.gov.au/Parents/About%20the%20technology/Parental%20controls.aspx>

1. 良いテクノロジー使用の模範を示す
いつもテクノロジーを使用していると、それが仕事のためであってもあるメッセージを発信していることとなります。「オフライン」になる時間を設けましょう。例えば、家族団らんの時間には形態の電源を切りましょう(短い時間でもいいのです)。

4. テクノロジーの使用法を監督する
監督するためにお子さんやコンピュータの移動をさせることが不可能ならば、お子さんが作業しているところで読書やアイロンなど、静かな作業をすることを検討してみてください。

7. 褒美として、テクノロジーを使用する
お子さんに、保護者も理解があり、柔軟になれることを示してください。時々褒美としてテクノロジー・インターネットの使用を行うことはかまいません。しかし、褒美を他の活動と混ぜる・合同で行うことは、家族全体の利益になります。

10. WiFi パスワードの変更
他に有効な方法がなく、お子さんが常にSNAをしたり、ネットサーフィンをしていたりする場合は、例えば数時間であっても、WiFiパスワードの変更をご検討ください。

下記サイトから、集中を妨げることなく、より効果的に作業・勉強をする方法について学べます：

<http://www.studyskillshandbook.com.au>

本サイトへのログイン情報はMoodleから取得できます。

Jeffrey Jones
Head of School



G11 DPオリエンテーションキャンプ...

「2日では短すぎる」熱海から東京に向けてバスに乗り込む際、11年生たちは一様にこう言いました。

今年の9月11日、興奮にはちきれそうな新たなDP生の一群が人生を変える新たな冒険に乗り出しました…といったら言い過ぎかもしれませんが、人生を変える、とまでは行かないかもしれませんが、どちらにしてもすばらしい経験であったのは間違いありません。

「10年ではキャンプにはいけなかったのですが、G11で行けて良かったです」とG11BのJieiは言います。昨年は人気のG10のスキー合宿がキャンセルされたので、何人かの生徒には不満が残ったようです。今年のキャンプのことを聞いた多くの生徒達は、多忙なDP最初の数週間からの切り替えが出来ることに喜んでいました。

しかし、キャンプは私たちが期待したようなのんびりしたものにはなりません。キャンプの主な目的はDPのオリエンテーションでした：初日は課題論文（EE）、学習法やDPについての一般的な内容のワークショップが行われました。これらのセッションは（比喩的に表現すると）「社会での実生活」が始まる前の高校生活の最終章への始まりでした。家を離れ、誰も食事を作らない環境や、外食が出来ないときでも飢えないように、Mr Nakadeとの料理のセッションもありました。最初は、「まてよ、シリアルにミルクを入れるくらい出来るよ！それでしばらくは大丈夫」と思っていたのですが、自分たちで作った料理のおいしさを味わってからは、料理には非常に高い価値があると思直しました。しかし、最も価値があったのは、夜遅くのカラオケで、44名の11年生がお



互いの方に腕をまわして、'We Are the World' のシンディ・ローパーばりの高音で歌ったときのものすごい一体感でした。

キャンプの興奮は2日目の海岸で最高潮に達しました。朝6時におきて、初めてのCAS活動を神社で行ったにもかかわらず、海岸で砂の城制作競争を行い、迫真のドッジボール大会-G11BのMasakiの奇跡のキャッチで幕を閉じ、その後狂喜したチームメートの肩車で試合会場をパレードしました-をするだけの体力は十分に残っていました。

11年生のオリエンテーションキャンプはこれまで経験したなかでも最も記憶に残るものの一つであり、これまでで一番強い学習に対する目的意識を与えてくれました。もちろん2日は短すぎましたが、これからの成功への道のりを進むにあたって友達や先生たちがどれほど大切な存在であるかを再確認できました。結局のところ、We Are the World – は「自分だけ」ではないのです。



セカンダリーSRC

DEAR

11月中の毎週水曜日、8:55 a.m. から9:15 a.m.まで、KISTの全生徒、教員、スタッフはお気に入りの本・コミック・そして時には教科書！を集中して読むことを楽しみました。SRCでは生徒たちがお気に入りの本を読んでいるポスターを制作し、KIST生の読書を促進しました。SRCはまた、読書の教育的効果についてのクリエイティブなポスターも制作しました。例えば、読書によって分析力が増進するということをご存知でしたか？ SRCは生徒達が様々なジャンルの本に触れ、読書を継続することを望んでいます。教員や生徒達はLMCの外に掲示された「私にとって読書とは？」という質問に答えることにより、読書への愛情と、創造性を発揮する機会も与えられました。華氏451の著者であるレイ・ブラッドベリは、「焚書より重い罪がある、そのうちの一つは本を読まないことだ」と言っています。

Winter wonderland

セカンダリーSRCは11月28日の金曜日にセカンダリースクール・冬のコンサートを主催する機会に恵まれました！美術委員会とHabitat for Humanity チームの協力で、生徒の素晴らしいパフォーマンスで冬の到来を迎えることが出来ました。



生徒によるクラブの提案

先日の学校集会で、栄光あるSRCメンバーが「全ての者が自分自身のクラブ設立を提案できます」と発表しました。



昨年のある忙しい10月の夕方、（正確には2013年10月11日、金曜日でした）SRC会議で「生徒にもクラブ設立を認めるべきだ」という声が上がりました。この案は議論の後、すべての代表委員による決が採られ、正式な提案として進められることになりました。

生徒達は正式に放課後クラブ設立の申請が認められるようになりました。提案書を提出し、十分なメンバーと、監督者（顧問）、さらに必要な条件（時間・場所）が整えば、クラブは実施されます！

Under the sea

一年の中で、生徒達が心置きなく友達と音楽を聴き、踊れる機会があるとすれば、学校のダンスに他なりません。SRCでは年間を通して2回ダンスを主催します。2014-15年度最初のダンスは11月21日に“Under the Sea”と銘打って行われました。生徒会の代表として、装飾を行い、食事の手配をし、セカンダリーの生徒がイベントを存分に楽しめるように企画や運営を行いました。イベントは、いっもどおり大成功を収めました！



お休み中にすることをお探しですか？

古い写真の中で何故誰も笑っていないのか不思議に思ったことはありませんか？チキンスープは本当に風邪をよくする役に立つのでしょうか？バクテリアとウィルスの違いはわかりますか？これらの質問の答えを提供するビデオを下記、Ask Smithsonianのウェブサイトで見てくださいか？

<http://www.smithsonianmag.com/videos/category/ask-smithsonian/?no-ist>



LEAPニュース

冬休みがすぐそこまで来ているなか、LEAPの1学期授業も終わりに近づいています。

今期導入したLEAPポートフォリオに関して非常に好意的なフィードバックをいただいています。ポートフォリオの導入は元々保護者の方のフィードバックにより始まったもので、このことにより生徒達が自身の学習内容に誇りと自主性を与えたと信じています。自身の学習内容や作品を振り返ることで、生徒達は自身の選択を意識するようになります。間違いについて建設的に語ることは間違いを学習機会に変えます。前向きな態度を保ち、子供たちに最大限の努力をするよう促しましょう。

LEAPプログラムについてのフィードバック-クラスについて・運営方法についてなど、はいつでも大歓迎です。フィードバックをお持ちの方は、LEAPウェブサイトの"Contact"からご連絡いただけます。

この数週間生徒達が行ってきた活動例です：

Mr John:

「K2では言葉の始まりの音とビンゴカードの音(文字)を繋げるビンゴゲームをして楽しんでいます。教師が発した言葉・単語を聞き取った生徒がその最初の音を持つ文字をビンゴカードから探し、印をつけます。だれかがビンゴ!と叫ぶまでゲームは続きます。

また、毎週「言葉の壁」に新しい文字が追加されていきます。生徒達は手を上げて、その文字・音で始まる単語を答えていきます。生徒があげた単語は教師によって「言葉の壁」に追加されます。週の終わりまでには出来るだけ多くの単語を「言葉の壁」に書いていきます」

Ms Anna:

「5年生の算数では、生徒達は分数や小数、百分率について学習しています。分数を小数に、小数を分数に変換する方法について学んでいます。また、整数を分数や小数で表す方法や、ある数の割合を算出する方法、そしてそれらが皆同じであるということ学びました(例: $50\% = 0.5 = \frac{1}{2}$)」



Max (K3B) が単語の練習をしています。



Ami (K3A) が大文字を使い、文字間の空間を空けて、文章を書きました。

昨年、LEAPでは「推薦」制度を導入しました。教師と英語サポートインストラクターが最もサポートを必要としている生徒を慎重に判断しています。これら推薦を受けた生徒はクラスへの優先的な在籍権が与えられます。2学期の推薦は1月初旬に送られ、申し込みもその後すぐに受け付け開始されます。2学期にLEAPの在籍をお望みの方はLEAPウェブサイトのチェックをお願いいたします。

新しく始まったセカンダリーの生徒対象のアカデミックライティングプログラム(小論文講座)も最初の学期をスムーズな滑り出しで始動しました。殆どの学年で定員いっぱいとなり、小論文作成スキルを向上させたい生徒に好評です。

Mr Boyd:

「6年生と7年生は時制の一致と綴りのパターンに特に注意を払いながら、映画の批評に取り組んでいます。下書きの最終稿を完璧な形で完成させるため、目下鋭意努力中です。生徒達は冬の休暇に十分値する努力をしています！」

Mr Davignon:

「この数週間、8・9・10年生は(私の時代の)流行歌の歌詞を使って文学的分析法を実践しています。この課題の主な目的は歌詞と自分の経験、他の作品や世界とを関連付けた文章を作成することです。また、文学的表現である比喻や暗喩、頭韻法などの認識と習得を目指しています。これらの技法がどのように作品や、読者に影響を与えるかについても理解を深めようと努力しています。私は、生徒達が休みに入る前に、流行文化に対する視点を変えたとともに、自分が読むものが自身をより賢く、敏感でより良い人間に会えるのだということを理解して欲しいと望んでいます」

2学期の申し込みを受け付けを開始いたしますので、座席を確保するためにもお早いお申し込みをお願いいたします。

プログラムについてご質問がございましたら、私宛にメールをお送りいただくか、メインオフィスをお訪ねくださいますようお願いいたします。

Anna Holdaway

LEAP Coordinator/Administrative Assistant

Staff 10!

今月のStaff 10!では学校創立時の1997年から勤務されていた、KISTの事務局長のSayoko Naitoをご紹介します。



KISTival 2013で新しい扮装をされているMrs Naito。

● 出身地について面白いことを教えてください。

日本でも有数の豪雪地帯です。毎年シーズン中には『大雪のニュース』で皆さんも何度か新潟県妙高市の名前を耳にすることと思います。私が住んでいた頃(数十年前)は、温暖化も進んでいなかったで今よりもっと雪が多く、雪国なのに大雪で学校が1週間程休校になったこともありました。

日本のスキー発祥の地です。ということで、アルペンスキーはプロ並み！と言いたいところですが、どこからでも滑れますが、上手ではありません。しかし、中学までクロスカントリースキーの競技選手だったので、体重がもとに戻ればおそらくクロカンスキーは得意です！面白いかどうかは別として、クロスカントリー競技をやっていたころは、足の指の全部が『しもやけ』になって、冬の間は毎年大変でした！実家から20分圏内に5種類の泉質の違う温泉地があるので、温泉好きにはうらやましいことでしょう。山間部ですが、海にも近いので、カニをはじめ、美味しい魚介類が楽しめる良いところですよ。

● 世界で一番好きな場所はどこですか？

たくさんありすぎて1番は決めきれないですが、歴史的建造物や自然が大好きなので、ヨーロッパ、アメリカの国立公園でしょうか。日本国内であれば、京都と屋久島です。

● チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。

内緒です。

● 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？

絶対に頑張らなければいけないときに、異常に頑張れる体力と気力があること。

● ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

今の仕事の前は、システムエンジニアでした。パーソナルコンピュータがようやく家庭にも普及を始めた頃になります。今では64ビットが普通ですが、私が仕事を始めた頃にはまだまだ8ビットの仕事もあり、辞める頃にはようやく32ビットの時代でした。制御系(例えばマイコンガスメーターの開発、人工衛星の制御)というエリアです。生徒の皆さんのお父さんやお母さんには尊敬されるかも！？初代『ゼルダの伝説』や『ボンバーマン』などのゲームソフトの開発もしました。

システムエンジニアに興味がある生徒に一言：

コンピューターを取り巻く環境は大きく変わりましたが、今でもその職種に必要なスキルのひとつは、体力であることは間違いありません！

● あなたにとって一番の宝物は？

一般的ですが、家族です。

私にとって家族とは、本当の家族(ペットも含め)は勿論、家族同様にお付き合いしている人たちも含みます。家族と感じられる人たちがあるから頑張れます。

● ご自分を言葉で表現すると？

責任感、信頼、創造的、持続力・継続力。

しかし残念なことに最後の持続力・継続力について自分のダイエットには当てはまりませんが…

● もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？

人生をやり直したいとは全く思いませんが、『IB教育を受けて成長してみたい』という思いはあります。私は、コンピューター関係の仕事に就き、実社会での様々な挑戦や失敗・成功等の実体験を通じて、必然的に論理的な思考力と、問題解決能力を身に着けたと思いますが、皆さんのようにIB学習を通じてそれらのスキルを身に付けて社会に出たらどうなっていたかな？という単純な興味がります。

● 自分を高めるために今やっていることは？

『正直に生きる』。私が尊敬する人の、『人間、正直な人が一番強い』という言葉ですが、本当にその通りだと思い、私も実践しています。

● ファンに一言お願いします。

ファンがいるとは思えませんが、自分の経験値からのアドバイスとして、やらないで後悔するより、やって後悔したり、反省したりすることが大事だと思います。

また、今、私は全く畑の違う、教育という現場で働いていますが、以前の全く異なった環境での経験は、今の(この先の)環境で、柔軟で、広い視野や違う角度から物事を判断するという点に、大いに役に立っていると実感していますので、皆さんも、ぜひ多くのことを実体験で学んでください。

新しいスタッフ紹介

コメットの前号発行後に、新しいスタッフがチームに加入しました。



Minako Kitamuraさん-学校売店の新しい店員です。

学校コミュニティを代表して、Minakoさんを歓迎いたします。

Minako Kitamura
K. Shop Attendant

KIST進級基準

昨年KISTではKIST Progression Criteria and Graduation Requirements (KIST進級基準及び卒業条件)と銘打った文書を公表いたしました。

これは2014年8月から実施されています。本文書はKISTの期待値や生徒の次学年やDPプログラムへの進級を検討する際の方針について説明したものです。すべてのコミュニティメンバーは、学校のウェブサイト、または以下リンクから入手可能な、この非常に重要な文書をご確認ください。



<http://www.kist.ed.jp/node/67>

KISTの算数・数学と英語に関する期待値も同じ場所から入手できます。

保健便り

ノロウイルス感染

毎年11月頃から翌年の4月にかけて、ノロウイルスの感染を原因とするウイルス性のおう吐・下痢症が流行します。学校などの子ども達が集団生活を送っている施設では、ヒトからヒトに感染し、爆発的に流行することがあります。感染力はきわめて強力です。毎年発生するノロウイルス感染の流行を阻止することは残念ながら不可能ですが、その流行を最小限に食い止めるために、ノロウイルス感染症の予防方法、家庭における注意点等を以下にあげてみました。

1. 調理と配膳に関して

- 調理の前と後で流水・石けん（液体石けんが推奨されます）による手洗いをしっかり行うこと。
- 貝類の内臓を含んだままで調理する際には十分に加熱すること。貝類を調理したまな板や包丁はすぐに熱湯消毒すること。貝類の内臓を含んだ生食は、時にノロウイルス感染の原因となります。
- 食事を配膳する際にも手洗いをすることが勧められる。特に自分が下痢や吐き気がある場合は必ず行うこと。



2. おう吐物・下痢便の処理

ノロウイルス感染症の場合、そのおう吐物や下痢便には、ノロウイルスが大量に含まれています。そしてわずかな量のウイルスが体の中に入っただけで、容易に感染します。

処理: おう吐物や下痢便の処理をする前に、まず処理にあたる人以外の方を遠ざけてください。処理の際に吸い込むと感染してしまうおそれのある飛沫（ひまつ）が発生します。少なくとも他の人は3m以上遠ざかってください。また、放っておくと感染が広がりますので、早く処理する必要があります。

方法: 使い捨てマスク・手袋をしっかりと装着して下さい。雑巾・ペーパータオル等で吐物・下痢便を外側から内側に向けて静かにふき取って下さい。眼鏡をしていない場合は、ゴーグルなどで目の防御をすることをお勧めします。ふき取った雑巾・ペーパータオル等はビニール袋に入れて、さらに塩素系消毒剤を入れて密封し、処分します。その後うすめた塩素系消毒剤（商品名：ピューラックス、ミルトンなど）やうすめた家庭用漂白剤（商品名：ハイター、ブリーチなど）でおう吐物や下痢便のあった場所を中心に広めに消毒して下さい。使用した手袋は付着物が飛び散らないように裏返して外し処分します。処理後は手洗いを念入りして下さい。

※消毒剤の希釈の際も素手でせず手袋を用いましょう。



3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類の処理

処分する事が最良ですが、できない場合マスクと手袋を装着してバケツなどでまず水洗いし、更に塩素系消毒剤で消毒することをお勧めします。いきなり洗濯機で洗うと、洗濯機がノロウイルスで汚染され、他の衣類にもウイルスが付着します。もちろん、水洗いした箇所も塩素系消毒剤で消毒してください。

4. 最も重要な予防方法は手洗い

帰宅時、食事前には、家族の方々全員が流水・石けんによる手洗いを行うようにして下さい。

*** 塩素系消毒剤を使って、手指等の体の消毒をすることは絶対にやめてください。**

Makiko Whittaker
School Nurse

Ankitおめでとう！



G8BのAnkitがインドのNGSE (National Genius Search Examination・全国才能発掘試験) に参加し、7年生の部で金賞を受賞しました。生徒の数学・科学の理解力・応用力を測る試験に参加し、優秀な成績を収めたAnkitにお祝いの気持ちを伝えます！

註: お子さんが学外の活動・試験において顕著な成績を収められた場合は、KISTコミュニティでもお子さんの成果を共有し、発表したいと思いますので、是非エリア校長にお知らせください(もしあれば、是非写真も共有ください)。



KIST模擬国連代表がソウルで世界的問題について議論を行う。



2日目の会議と議論の後の代表者たち

私は他の多くの参加者ととも11月1日にソウルで開催された模擬国連(SEOMUN)に出席しました。私は昔から模擬国連に興味を持っており、これが参加した二度目の会議でした。この会議は私の人間性に多大な影響を与え、出席前と後で、私は全く違う人間になったと感じるほどです。まず、最初は自分に自身が持てず、他の国に攻撃・反論されるのが怖くて発言するのにためらいがありました。でも、会議が進むにつれ、私は自信を持って自分の意見を発表することが出来るようになってきました。



総会の公式演説を行う
Eimi (G10B)

MUNについてあまり良く知らない方のために、簡単にこの会議についてご説明します。MUNは模擬国連の略で、高校生のためのより規模が小さくなった国連組織です。MUNではSEOMUNのような国際会議やKISTが1月に主催する地域的な会議やKIST内部にあるようなクラ

ブ形式と、様々な形態のものが存在します。MUNでは自分が代表となる国と、解決・対処すべき問題が与えられます。与えられた問題についてリサーチを行い、過半数の国々からの支持を得られる適切な解決・対処法を提案しなければなりません。ある意味、これはディベートのようなものです。MUNでは問題を解決するために必要な事柄について議論するのです。また、MUNには各種委員会があるので、問題は委員会の対応範囲におじて分割されます。SEOMUNでは人権、総会、経済及び社会評議会、環境評議会、安全保障評議会などの委員会がありました。

SEOMUNでは私はスロベニアの代表を務め、総会に所属しました。私たちには3つの異なる問題が与えられ、まず、グループに分かれて各問題への解決策を記載した決意表明を用意することが求められました。私のグループには世界中の国々を代表する15-20名ほどの代表者が在籍していました。また、私の委員会である総会には80名以上の代表が所属しており、80人以上の見知らぬ人たちの前でス

ピーチを行うことは、少なくとも私にとっては、非常に厳しかったです。私はスピーカーとして自信のあるほうではなく、自分の発言が間違っていて他の国に攻撃されるのも怖かったので、あまり発言をしませんでした。しかし、時間が過ぎるに従って、日本に帰って自分が発言しなかったことを後悔したくないなら、今話さなければならぬと思うようになりました。それからは出来るだけの努力をして発言や質問をするようになりました。



Keerti (G12B)とAika (G10B)、
環境委員会の会議の途中での
ポーズ



Aditya (G11B)、Raj (G11B)と
Angela (G11B)が総会内容に
集中しているところ

この経験で私は多くのことを得ました。まず、一番重要なことは、自分に自信を持つことです。自身をもって行動すれば、すべての物事はあるべくよう収まります。自信を持って発言すれば、他の代表は気おされて発言者が強い競争力を有していると思い、味方についてくれるかもしれません。発言内容が大事なのではなく、自信を持って発言するという態度が大事なのです。もう一つ学んだことは他の代表者と話すことです。必ずしも他の委員全体の前で話す必要はありませんが、小グループや休憩時間に意見交換をするのは大切です。こうすることで他の国の代表と交流し、学ぶことが出来るのです。私はMUNでは新参者だったので、他の代表を見て学ぶことも多かったです。彼らをよく観察し、彼ら行う小さな、けれど、彼らの行動の助けとなった行動を見て多くを学びました。例えば、多数の発言を行い、他の代表に質問をしたり、メモを渡したり、議論中に彼らのテーマに興味を示したりなどです。



KIST 代表団、Ms. BabaevaとMr Cernak、ソウルのアート
ストリート仁寺洞で

次のページに続く

前ページの続き

これを読んでいる方たちのなかには、やったのはそれだけ？と思っている方もいるでしょう。会議に出席しただけ？そんなことはありません！観光など、他のことをする時間もありません。ソウルの中心部から、近郊の路地まで様々な場所を訪れました。他の国を訪れ、友人たちと楽しい時を過ごすことはすばらしかったです！会議中も、多くの友達を作り、楽しいときを過ごすことが出来ました。会議中はとても真剣に参加しなければいけないときもありましたが、休憩時間には、代表者は皆ふざけたり、ただ楽しんだりしていい思い出をたくさん作りました。

この経験全体を通して、とても多くのスキルと一生忘れない多くの思い出を得ることが出来ました。MUNIに興味を持った人がいたら、是非MUNクラブに参加することを強く勧めます。そして、もし機会があって行けるのなら、是非SEOMUNに行ってみてください。質問がある人は遠慮なく私にメールやまたは廊下で呼び止めて質問してください！

Radhika (G10B)

KIST MUN Trip 2014 Participants

General Assembly I

Kouta (G12B), Raghav (G11B), Akiko (G10A), Eimi (G10B), Radhika (G10B), Nina (G10A)

General Assembly II

Raj (G11B), Angela (G11B), Aditya (G11B)

Environment Commission

Aika (G10B), Keerti (G12B)

Special Conference

Aashvi (G11B), Aishwarya (G12B)

ECOSOC

Armina (G10A), Anisha (G11B), Saya (G11B)

Human Rights

Saachin (G10B), Arjun (G10A)

(Teachers: Mr White, Ms Babaeva, Mr Cernak)

College Guidance News

自分に合った大学をどうやってみつけるか

この時期までにほとんどの12年生は出願する大学の最終リストを作成し、その中のいくつかの大学にすでに出願書類を送った生徒もいます。まもなく次々に良いニュースが届き始め、今年もまたすばらしい年になると期待しています。多くの11年生や一部の10年生もすでに自分で大学検索を始めているのではないのでしょうか。

11年生には2学期のアドバイザーの時間のカレッジガイダンスのクラスや2月6日(金)の夜に行われるG11 College Night でどのように大学リストを絞り込んでいくかということについて説明します。

ここでは、それぞれの生徒が自分に合った大学をみつけるためのいくつかのヒントを紹介します。

大学検索を始める前に自分に問かけること:

- あなたのキャリアゴールは？
- 学校の勉強で楽しんでいる科目は？
- 勉強したい科目は？
- 出願要件を満たしているか？(高校で履修していなければならない科目、DPの最低必要点数など)
- あなたのキャリアプランは？その大学はあなたの興味に関連したコースや勉強したい分野を提供しているか？

大学選びの際に考えるべき大学の特徴:

- 種類:リベラルアーツ大学、総合大学、アートスクール、プロフェッショナルスクール
- 規模:大きい、中くらい、小さい
- 場所:大都市、小さい町、田舎や山の中など人里離れた場所
- コース、専攻科目、学問分野
- 費用:ファイナンシャルエイド、スカラシップ
- ダイバーシティ:留学生の割合
- 選考基準や方法、合格率
- 進級率や卒業率
- 卒業後の就職状況
- インターンシップの機会
- 留学プログラム

大学選びを始める際には、各大学の特徴を比較できるような表を自分で作成することをおすすめします。自身のもっているアカデミックな可能性を最大限にひき出すためにはそれぞれ固有の学習スタイルがあると思います。課題を終わらせるために先生からいろいろと細かいアドバイスや指示が必要なタイプ？それとも自分でできるタイプ？もし、最初のほうのタイプならば、大規模な大学よりも、インストラクターや教授、スタッフからよりきめ細かいアドバイスやケアが期待できる小さい規模の大学のほうが向いているかもしれません。そうでないと、大学の門をくぐったとたん大海原に放り出されて迷子になってしまう可能性があります。キャリアや大学に関する質問や相談がありましたら、いつでもカレッジガイダンスオフィスに連絡してください。

今後の大学関連イベント

G11 College Night (11年生大学進学説明会)

2月6日(金) 6-8pm (11年生の生徒全員と、各家庭から保護者ひとりとは必ずこのイベントに出席してください。1月始めにご案内のレターをお送りします。)

College Presentation at KIST LMC (KISTでの各大学説明会)

1月16日(金) 2:45-(G11 Advisory), 3:45-(LMC) ロンドンスクール オブ エコノミクス、イギリス
<http://www.lse.ac.uk/home.aspx>

KIST Spring College Fair (KIST 2015春の大学フェア)

3月21日2:00-4:00 KIST 体育館にて
この大学フェアはKIST全校を対象としています。エレメンタリースクールの保護者の方も参加可能です。昨年は、日本、アメリカ、イギリス、ヨーロッパ、オーストラリアから40以上の大学が参加しました。ぜひお越しいただき直接大学代表の方にお会いいただきたいと思います。

Mrs Keiko Okude

College Guidance Counselor

keiko.okude@kist.ed.jp

PTAコミッティー...

Library Committee



この委員会は、生徒たちのために、KIST 図書館と彼らの読み書きのためのプログラム、そしてその活動を支持します。委員会ではDEAR ブックキャラクターパレードのようなイベント、Scholastic オーダーでの本の配布、エレメンタリー図書館にて本を棚に戻したり、整理するお手伝いをしています。また、図書館コンテストでの賞、著者訪問、その他の図書館で行うイベントなどもライブラリー委員会が後援します。私たちは、本をカバー装丁することなどでも、図書館をサポートしています。もし、KIST 図書館や生徒たちの読み書きの能力推奨をサポートすることに興味ございましたら、直接 p-1022@family.kist.ed.jp ライブラリー委員長(ベッキー=ヤリタ)まで、ご連絡ください。



図書委員会のメンバーと、KIPSへの寄付

図書委員会メンバーがScholasticのオーダー処理を行いました

ご注文くださった方々、ありがとうございました。KIST図書室では今年度のご注文で £395の収益がありました。これらの収益金は姉妹校であるケイ・インターナショナルプリスクール(KIPS)の図書購入に充てさせていただきました。図書委員会はDEAR活動の一環として、2年生と3年生の作家訪問のための資金援助も行いました。作家のMr Chris Larter はご自身が作家になられた経緯や、どのように書く物語をけているのかを生徒達と共有してくださいました。火曜から金曜の放課後は、すべての保護者の方にも図書室で本を借りて頂けますので、是非お越しください。

Becky Yarita (Yoki G7B, Yoreh G2A)
Library Committee Chair



Bell Mark Committee

ベルマークポイントを貯めると、学校に有用な商品と交換する事ができます。ベルマークは日用品や使用済みプリンターカートリッジ、テトラパックが対象です。ベルマーク委員会は2ヶ月に一度集まり、収集されたベルマークのカウント、仕分けを行っています。是非ベルマークをおうちで見つけて、学校にお持ち下さい！

Takashi Yoshida (Koume K2) p-990@family.kist.ed.jp
Bell Mark Committee Chair



News Committee

News Committee (広報委員会)は今年度PTAに新たに追加された委員会です。PTAの活動をより良く広報することでKISTコミュニティの結束と、より多くのご家族に教室外の活動に参加していただくことを目的としています。活動の当初の目的は、定期的なPTA会報を発行することですので(年明け早々に初の開放がお目見えする予定です！)、内容について皆様のご意見を伺いたいと思います。また、広報委員会の活動にご参加いただける方、イベントの写真や記事の投稿、記事の翻訳や編集、その他、どのようなお手伝いも大歓迎です。ご意見やお手伝いいただける方は、書きアドレスにご連絡ください:

p-1010@family.kist.ed.jp

Rob Goss (Arthur G2A)
News Committee Chair



Student Activities Committee

KIST課外活動プログラム等をボランティアの保護者でサポートします。この委員会では、生徒たちが積極的に課外活動に取り組み、より良い経験を学校生活で得られるようにサポートします。お手伝い頂ける保護者の方、アクティビティに関してご提案のある方は下記Eメールまでご連絡ください。
pta.student.activities@family.kist.ed.jp

Mitsuko Morooka (Mariko G4A)
Student Activities Committee Chair



次のページに続く

前ページの続き

Cultural Connections Committee

Cultural Connections Committeeは今年KISTの皆様には様々な楽しい企画を計画しています。11月には保護者対象に英語(学校使用言語)と日本語(ホスト国言語) 両言語のお互いの教えあい・練習を兼ねたランゲージ・エクステンジ・パーティーが開かれました。6か国の違う国々の保護者があつまり、単なる言語の勉強以上のものをお互いシェアしあって、充実した時間を過ごしました！



今後のイベントにも皆様の更なる参加をお待ちしています。次の企画は12月10日9時から予定しているクッキー・エクステンジ・コーヒーモーニングです。12月10日はウィンターコンサートの日です。コンサートの前には是非皆様お立ち寄りください。



このCommitteeにご協力願える方は p-791@family.kist.ed.jp までご連絡ください。

Trisha Shikahama (Emiko G4A)

Events Committee

今年、「Simple and Fun」のテーマのもと、PTAはさまざまな形でKISTコミュニティをまとめることに力を入れています。Events委員会は、11月に成功したPotluckを主催し、冬休み前の12月にセカンド・ハーベスト・ジャパンに食料品を提供するフード・ドライブ企画をサポートしています。私たちは、いくつかの別のイベントを今学年度にて計画しています、また、常に、あなたのアイデアや提案に関心を持っています。今までで最高の一年とすべく、ぜひ私たちの委員会に参加してください!! 参加することに、より興味を持たれた方は、是非 p-528@family.kist.ed.jp までご連絡ください。



PTA Potluck

11月24日(金)にPTAイベントコミティー主催のかつてない“Potluck”パーティーがありました。このパーティーは北米にはよくあるもので、KISTでも同様に多くの家族がカジュアルにおしゃべりをし、お食事を楽しまれました。参加されたご父兄は母国や自分のお気に入りのユニークな独自のレシピの料理を持参して頂きました。皆さんがどんな料理を持ってこれるのかと熱心に考えていましたが、誰もが想像できないぐらい、パン、サラダ、ディップ、シチュー、スープ、パイとその他諸々の豪華な料理が出てきて、体育館が長い間、美味しい匂いでしばらく漂っていました。計45種類(16カ国から)の料理、100人以上の方々が2時間の間にこられ、新しい料理に強く興味がある人達だけではなく、参加者の中から優秀なシェフも隠れていた事も認識できました。



PTAエグゼクティブコミティーの皆様には継続なるサポートとMr Jiun Bayのデザイン作成と吉田崇さんの印刷、そして最後にPotluckの参加者に美味しく、クリエイティブな料理に多大なる時間と成果を尽くしてくれ事に心よりお礼申し上げます。KISTのご父兄は本当に素晴らしく、凄腕の方々の集団です。次回のイベントが待ち遠しいです！

Kevin Williams (G5A Kaiser, G2A Killian)
Events Committee Chair



Memories of...

K Festival 2014

Saturday, October 25

